平成 22 年10月 1 日
第 41 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

参加者31名 和気あいあいの奉仕作業



楽じゃないけれど、みんなで力を合わせれば元気に作業

9月18日は小郡区域の敬老を祝う式典が行われましたが、今年の敬老の日は第三月曜日の20日となっています。ところが20日は老人クラブの全国一斉社会奉仕の日となっており、敬老対象者が奉仕作業で活躍されるという少し皮肉な事態となりました。

当日は小郡区域内の各地で、様々な奉仕作業が行われていました。柳井田地区では、婦人会と協力して中領八幡宮の清掃、山手下区では大神宮遥拝所広場の清掃草刈り、東津区では厳島神社の清掃などそれぞれ大活躍でした。

八方原区では市道の除草、清掃に参加者全員が力を合わせました。「八方原の環境を守る会」では農地に隣接している道路の除草、清掃活動である事から、この作業を農地・水・環境保全向上対策事業のひとつとして取り上げています。

作業の対象となる道路の距離は約2000メートルですが、道路の両側となりますので、その距離は倍となります。これだけの作業をこなすみなさんの元気とパワーに拍手を送りたいと思います。まずはご苦労様でした。

花いっぱいで きれいな地域



栽培技術、規模どれも群を抜く 6 班中心の花壇

9月7日、小郡花いっぱい運動コンクールの審査が行われました。

当地区は4団体が参加しました。6班中心の花壇は県全体のモデルとして別格の賞典外、他の3団体は惜しくも、参加賞となりました。

許されません無駄遣い



参加者全員、真剣に聞き入りました（県土連会議室）

9月2日、山口県土地改良連合会で農地・水・環境保全向上対策事業の会計と監査対象の勉強会が開かれました。当会でも、会計と監査の2名が参加してまいりました。

県事務局の趣旨説明で、交付金の不正な扱いが後を絶たない事を取り上げ、「どんな素晴らしい事業や活動も、お金のトラブルがひとつでも出てしまうと、全ての評価がゼロになる」と念押しされました。

その後様々な事例を参考にし、状況に応じた正しい対応を行うように厳しく指導を受けました。国や県からの交付金が正しく、効果的に生かされるよう努力してまいります。

大型コンバイン出動

農事組合法人八方原



うなりを上げて圃場を走り回る大型コンバイン

早稲品種の稲の刈り取りが始まり、秋の収穫がスタートしました。猛暑だった今年の夏、各地で農産物への影響が出ていますが、当地区のお米の出来はどうでしょうか。

関係者によりますと、「まだ刈り取りが始まったばかりだが、量自体はまずまずではないか。問題は品質だ」とのことでした。

台風の影響もあまり受けなかったのも今年の特長です。二度の警報が出ましたが、いずれも影響は軽微なものでした。

刈り取り作業中は、積み込み、運搬などがありますので、農道への一般車両通行は出来るだけ控えていただきますようお願いします。

公共下水の排水管が敷設

当地区に関係する公共下水道の工事が始まりました。８月９日の説明会で報告された通り、当地区から元橋地区につながるパイプの工事です。

このパイプを通って地区内の生活排水が下流側に送られていきます。直径１００ミリメートルと小ぶりなのですが、圧力をかけて送る方式なので十分なのだそうです。

工事は県道の東側を掘削して行われました。午前中にその日進めるだけの溝を掘り上げて、午後からパイプを埋めて、路面を元に戻して一日の作業終了となりました。



トラックの荷台に積み込まれたパイプ

埋められるパイプは、トラックの荷台に積まれた樹脂製のパイプでした。リールのように巻かれたパイプが、必要なだけ巻き下ろして、埋設されていきました。

生活排水の中でも洗剤や油などはもっとも、生物植物環境に影響を与えると言われています。公共下水はそうした生活汚水を浄化して放流するので、この地域の環境向上に大きな力となるでしょう。

イノシシ親分のひとりごと



やれやれ今年夏はほんまに熱かったわい。わしらは厚い毛皮じゃからな、余計に熱いのよ。あんまり熱いんでわしらの餌にもいろいろ問題がでチョル。わしらだけじゃない、猿や熊の連中も弱っチョルと聞いた。カラスのばあ様が教えてくれるのじゃ。この前は自動車のビュンビュン走る高速道路で猿がはねられたのを見たとか言いよった。猿が自動車にはねられちゃーのぉ。

だいたいわしらは夜、ソウソウするのは好きじゃないんじゃ。ほんじゃが、日中走り回りよると人間に見つかるじゃろうが、しょうがないから暗うなってから、ちょろちょろするわけよ。

この辺のおっさん連中は稲の実った田の中を何やら大きな音のする機械で走りまわっちょる。恐ろしいこと、恐ろしいこと。近寄らりゃせん。それにわしらは稲穂がかとうなった米はあまり好きじゃないんちゃ。あのかとうなる前の牛乳みたいな時がうまいんよのぉ。

なんでも「楢枯れ」とかいう木の病気があるらしゅうて、山の中にドングリが少ないんちゃ。わしらにとっちゃおおごとなそいや。腹が減ると、だんだんあの恐ろしい人間の家の側に行かんにゃ行けんようになる。家の周りにゃいろいろええもんがあるからの。じゃが、命がけよ、おいしそうなものがあると思うて、覗いてみたら何やら周りが固い棒で囲まれちょらーや。「こりゃ、いけん」ちゅうて教えるんじゃがの、若いもんがいうことを聞かんと飛び込んじゃ出られんようになるそいや。

まあどねーか、イノシシも人間もええ具合になるとええがの。

この内容はNHKラジオ番組の情報をもとにしました。

雪の降った後のような歩道

９月９日の朝、県道沿いの街灯の下に、蛾の一種の屍骸が歩道を覆い、まるで雪のように積み重なっていました。

この時期だけに起こる現象のようです。



これが虫の屍骸とは思えない